



第44回 毎日こどもピアノコンクール 本選会・連弾の部 B部門

審査員講評

あきもと えり こ

秋元恵理子先生（当番審査員）



連弾B部門本選にご出場の皆様、誠におめでとうございます。

暑い中指導者も一丸となって一生懸命に練習し、予選からさらに磨きをかけて完成度を高めていかれた努力に心から敬意を表します。

連弾B部門は比較的年齢の近い小学生ペアが多いのが特徴です。

そこで問題になって来るのが選曲です。

弾きごたえのある難しい曲にチャレンジしてみたい気持ちはわかりますが、明らかに本人達の力量に合っていない曲を選んでしまい、曲の魅力を十分に引き出せないまま終わってしまった残念な演奏もありました。

反対に難易度がそれほど高くなく、自分達が楽しんで弾ける曲を二人共に息をピッタリ合わせて生き生きと表現されている演奏にはとても好感が持てました。

また、拙作も含めて邦人作品が多く、聞く方もカラフルなハーモニーを楽しませていただきましたが、中にはベートーヴェン、ハイドンなどの古典の作品に取り組まれた方もいらっしゃり、丁寧なアンサンブルがとても新鮮に聞こえました。

このように自由曲の場合はまず生徒さん2人の特徴、技術力、音楽的な成熟度などを慎重に考えた選曲が大切だと強く感じました。

また、楽譜を良く読み込んで作曲者の意図を汲み取ること、これは演奏される側ばかりではなく、私たち審査する側にも求められることだと思いました。

でも最終的に連弾で一番大切なのはとにかく楽しんで弾くこと！

二人で弾ける喜びを全身で表して、聞く人も楽しくさせる、そんな演奏が最高なのではないでしょうか。

いつも温かく見守り、サポートして下さった指導者、関係者の皆様、そしてこのような機会を与えて下さった毎日新聞社様に心より感謝申し上げます。